

観点	番号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		17・教出	第1学年 第2・3学年(上) 第2・3学年(下)	音楽・701 音楽・801 音楽・802	中学音楽 1 音楽のおくりもの 中学音楽 2・3 上音楽のおくりもの 中学音楽 2・3 下音楽のおくりもの
取扱内容	学習指導要領の総則及び各教科の目標、内容等	<p>○ 歌唱については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>第1学年～斉唱から混声三部合唱までについて、曲想と形式との関わりを理解したり、主旋律を担当するパートを確かめ、他の声部を聴きながら歌うために必要な技能を身に付けたりして、歌唱表現を創意工夫する。</p> <p>第2・3学年～斉唱から混声四部合唱までについて、曲想と曲全体の構成とのかかわりを理解したり、他の声部や伴奏と合わせて歌うために必要な技能を身に付けたりして、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。</p> <p>○ 創作については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>第1学年～言葉のリズムやまとまりを理解したり、全体の構成を考えながら音楽をつくるために必要な技能を身に付けたりして、創作表現を創意工夫する。</p> <p>第2・3学年～音符のつなげ方によるリズムの違いを理解したり、選んだ言葉や音階の特徴を生かして表現するために必要な技能を身に付けたりして、まとまりのある創作表現を創意工夫する。</p> <p>○ 鑑賞については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>第1学年～我が国や郷土の音楽及びアジア地域の諸民族の音楽等について、音階や曲の構成等を理解して、複数の音楽の特徴や関連について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。</p> <p>第2・3学年～我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽等について、リズムや旋律の反復による曲全体の構成等を理解して、音楽の役割や特徴を踏まえた共通点や相違点について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。</p> <p>○ 〔共通事項〕については、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1学年～活動内容に示された〔共通事項〕を意識しながら、音楽のまとまりを生かして合わせて歌ったり、声の音色や出し方などの特徴を聴いたりする活動</p> <p>第2・3学年～活動内容に示された〔共通事項〕を意識しながら、曲想を感じ取り、形式を生かして歌ったり、音楽の背景を理解して曲全体の構成を聴いたりする活動</p> <p>○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1学年～「全体の構成を考えながら音楽をつくろう」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、言葉の重ね方を工夫しながらイメージに合った音楽をつくるなど、考えを広げたり、深めたりする活動</p> <p>第2・3学年～「CMソングをつくろう」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、言葉や音階の特徴を生かして旋律をつくるなど、考えを広げたり、深めたりする活動</p>			
内容の構成・排列、分量等		<p>○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。</p> <p>第1学年～郷土の様々な民謡の学習の後に、日本とアジアの声による表現の特徴を聴き取ったり、日本と世界の歌唱における声の出し方を比較したりする学習を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫</p> <p>第2・3学年～歌舞伎を鑑賞する学習の後に、歌舞伎と文楽を比較したり、オペラと歌舞伎の音楽の役割や特徴における共通点や相違点について考えたりする学習を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫</p>			

	<p>○ 内容の分量については、次のようになっている。</p> <p>第1学年～歌唱は44ページ、創作は6ページ、鑑賞は26ページ、その他は8ページであり、総ページ数は84ページで、前回と同様となっている。</p> <p>第2・3学年(上)～歌唱は36ページ、創作は4ページ、鑑賞は31ページ、その他は13ページであり、総ページ数は84ページで、前回と同様となっている。</p> <p>第2・3学年(下)～歌唱は34ページ、創作は4ページ、鑑賞は29ページ、その他は17ページであり、総ページ数は84ページで、前回と同様となっている。</p>
<p>使用上の 配慮等</p>	<p>○ 「Let's Sing!」で表現するための技能を提示したり、作者の思いに触れるようにして、音楽を愛好する心情を育んだりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○ キャラクターの吹き出しによるヒントの提示や、「比べてみよう」で学習した教材を比較して表現する活動を掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫がなされている。</p> <p>○ 全ての生徒が学習しやすいよう、ユニバーサルデザインフォントを使用したり、配色やレイアウトに配慮したりするなど、使用上の便宜が図られている。</p>
<p>指導上の 配慮等</p>	<p>○ 地域素材については、歌唱や鑑賞の教材として北海道の民謡である「ソーラン節」や「江差追分」、本市や北海道に関係する「雪の降る街を」「時計台の鐘」などが扱われるとともに、楽曲に関する旭川市大雪クリスタルホールと作詞者直筆の「雪の降る街を」の詩碑、札幌時計台の外観、札幌コンサートホールKitaraのパイプオルガンの写真等が取り扱われている。</p> <p>○ ICTの活用については、巻頭にQRコードを掲載するとともに、ウェブサイト「まなびリンク」で、歌詞の表す情景に合う映像や範唱の視聴、合唱や鑑賞でのパートごとの演奏音源、ワークシートの掲載など、様々なコンテンツを学習活動に活用できるよう工夫がなされている。また、「コンピュータと音楽」で、音楽に関する知的財産権やインターネット上の音楽利用について学ぶことができるよう工夫がなされている。</p> <p>○ 小中連携による指導については、小中で共通に扱う音楽を形づくっている要素を手掛かりに、気付きや考えを「話し合おう」の欄に記述し、音楽的な見方・考え方が深められる学習活動へと展開できるような配慮がなされている。また、小学校の共通教材「ふるさと」を混声三部合唱で掲載しており、小学校での歌唱の学びを生かして歌うことができるよう配慮がなされている。</p>
<p>本市生徒の 学習の状況等</p>	<p>○ 音楽の特徴を聴き取り、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を生かして表現を工夫する力を育むことができるよう、主教材に関連させて扱うことができる教材曲を掲載しているとともに、巻頭の「学びのユニット」で、題材で扱う〔共通事項〕が分かりやすく示され、生徒が学習のポイントを視覚的に捉えられるよう工夫がなされている。</p> <p>○ 曲想と音楽の構造や曲の背景との関わりを捉えて表現する力を育むことができるよう、指揮や唱歌、長唄などを扱い、表現するために必要な技能をイラストや図で分かりやすく提示した「Let's Try」の活動を設定している。また、学習の流れを見通し、活動に合わせて気付きや考えを整理することができるようワークシート欄の構成を工夫したり、段階を追って創作することができる「音のスケッチ」を設定したりするなどの工夫がなされている。</p> <p>○ 鑑賞において、想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、自己のイメージや感情を伝え合い、互いの感じ方や考え方に共感することができるよう、「何が同じで、何がちがう」「話し合おう」で、比較して聴く活動や自分の感じたことを整理して友達に紹介する活動を設定するなどの工夫がなされている。</p>
<p>その他</p>	

観点	番号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		27・教芸	第1学年 第2・3学年(上) 第2・3学年(下)	音楽・702 音楽・803 音楽・804	中学生の音楽1 中学生の音楽2・3上 中学生の音楽2・3下
取扱内容	学習指導要領の総則及び各教科の目標、内容等	<p>○ 歌唱については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>第1学年～斉唱から混声三部合唱までについて、旋律の特徴や強弱の変化を理解したり、互いの声や伴奏をよく聴いて歌うために必要な技能を身に付けたりして、歌唱表現を創意工夫する。</p> <p>第2・3学年～斉唱から混声四部合唱までについて、曲想と歌詞の結び付きを理解したり、全体のまとまりに気を付けて歌うために必要な技能を身に付けたりして、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。</p> <p>○ 創作については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>第1学年～音のつながり方の特徴を理解したり、音素材の特徴を生かしながら構成を工夫して音楽をつくるために必要な技能を身に付けたりして、創作表現を創意工夫する。</p> <p>第2・3学年～言葉の抑揚を生かすことを理解したり、音階を使って和音の動きに合わせて音楽をつくるために必要な技能を身に付けたりして、まとまりのある創作表現を創意工夫する。</p> <p>○ 鑑賞については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>第1学年～我が国や郷土の音楽及びアジア地域の諸民族の音楽等について、楽器の音色、旋律の特徴、速度の変化等を理解して、各地に伝わる音楽の特徴について自分なりに考え、音楽等のよさや美しさを味わって聴く。</p> <p>第2・3学年～我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽等について、声や楽器の音色、旋律の特徴等を理解して、世界各地の楽器と似た特徴をもつ日本の楽器の音楽などを聴き比べて共通点や相違点について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。</p> <p>○ [共通事項]については、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1学年～活動内容に示された[共通事項]を意識しながら、曲の構成を感じ取り表現を工夫して歌ったり、曲想と音楽の特徴との関わりを感じ取って聴いたりする活動</p> <p>第2・3学年～活動内容に示された[共通事項]を意識しながら、曲想の変化を生かして表情豊かに歌ったり、作曲者の思いを感じ取りながら、音楽のよさや美しさを味わって聴いたりする活動</p> <p>○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1学年～「My Melody」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、音のつながり方を工夫しながら旋律をつくるなど、考えを広げたり、深めたりする活動</p> <p>第2・3学年～「Let's Create!」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、リズムの重なりや音の出し方を工夫してリズムアンサンブルをつくるなど、考えを広げたり、深めたりする活動</p>			
内容の構成・排列、分量等		<p>○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。</p> <p>第1学年～日本の民謡を味わって聴く学習の後に、声や音楽の特徴を生かして民謡を歌ったり、郷土に伝わる民謡を調べたりする学習を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫</p> <p>第2・3学年～文楽を味わって聴く学習の後に、声や音楽の特徴を生かして義太夫節を語ったり、郷土の祭りや芸能について考えたりする学習を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫</p> <p>○ 内容の分量については、次のようになっている。</p>			

	<p>第1学年～歌唱は53ページ，創作は7ページ，鑑賞は24ページ，その他は15ページであり，総ページ数は99ページで，前回より約24%増となっている。</p> <p>第2・3学年(上)～歌唱は51ページ，創作は6ページ，鑑賞は28ページ，その他は14ページであり，総ページ数は99ページで，前回より約24%増となっている。</p> <p>第2・3学年(下)～歌唱は46ページ，創作は4ページ，鑑賞は34ページ，その他は15ページであり，総ページ数は99ページで，前回より約24%増となっている。</p>
<p>使用上の 配慮等</p>	<p>○ 「My Voice」で歌唱表現のための技能を提示したり，演奏者からのアドバイスを紹介して学習を深めることができるようにしたりするなど，生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○ キャラクターの吹き出しによるヒントの提示や，「曲のよさをプレゼンしよう」でみんなに薦めたい曲のよさを音楽と関連付けてプレゼンテーションする活動を掲載するなど，主体的に学習に取り組むことができるよう工夫がなされている。</p> <p>○ 全ての生徒が学習しやすいよう，ユニバーサルデザインフォントを使用したり，白を基調とした紙面で，情報の配置に配慮したりするなど，使用上の便宜が図られている。</p>
<p>指導上の 配慮等</p>	<p>○ 地域素材については，歌唱や鑑賞の教材として北海道の民謡である「ソーラン節」や「江差追分」，郷土の芸能として「アイヌ古式舞踊」が扱われるとともに，鑑賞や歌唱の授業において，地域のゲストティーチャーを招き，実際に楽器に触れたり音色を聴いたりする学習活動に活用することができる教材が取り扱われている。</p> <p>○ ICTの活用については，教科書の要所にQRコードを掲載し，関連する画像や外部リンク先などを示すことにより，授業における参考資料として活用できるよう工夫がなされている。また，「曲のよさをプレゼンしよう」でICT機器を扱ったり，「ルールを守って音楽を楽しもう！」で音楽に関する知的財産権やインターネット上の音楽利用について学んだりできるよう工夫がなされている。</p> <p>○ 小中連携による指導については，「My Melody」「Let's Create」で創作の手順を分かりやすく示し，小学校における「音楽づくり」の学習内容を踏まえながら学習を見通し，段階的に取り組めるような配慮がなされている。また，小学校の共通教材「ふるさと」を混声三部合唱で掲載しており，小学校での歌唱の学びを生かして歌うことができるよう配慮がなされている。</p>
<p>本市生徒の 学習の状況等</p>	<p>○ 音楽の特徴を聴き取り，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を生かして表現を工夫する力を育むことができるよう，巻頭の「学習内容」において題材で身に付ける力を分かりやすく示したり，教材ごとに目標の下に〔共通事項〕を示したりするなど，生徒が年間を通して学ぶ内容を捉えられるよう工夫がなされている。</p> <p>○ 曲想と音楽の構造や曲の背景との関わりを捉えて表現する力を育むことができるよう，「深めよう音楽」で曲想や音楽の構造を捉えて感じ取ったことを話し合う活動を設定するとともに，「音楽を形づくっている要素」のページや楽曲に対する気付きや考えを整理するワークシート欄を設定することにより，表現するために必要な知識や技能を身に付けることができるよう工夫がなされている。</p> <p>○ 鑑賞において，想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして，自己のイメージや感情を伝え合い，互いの感じ方や考え方に共感することができるよう，キャラクターの吹き出しで鑑賞する際の視点を示し，他者との交流を通して言語活動の充実を図る活動を位置付けるなどの工夫がなされている。</p>
<p>その他</p>	